

事例 6 体験したことを振り返り、表現し伝える力を育む事例

○学年 知的障害特別支援学校中学部（2年）

○指導の内容および指導の形態 生活単元学習

○事例のポイント

- ① ICT端末を活用して、自分の考えを表現したり、記述等をしたりにすることによって、他者に伝えることができるようになるのと同時に、伝える経験を積むことができる。
- ② 学び合い等、他者と協働することによって、適切な役割分担をしたり、必要なコミュニケーションを積んだりすることができる。
- ③ 自分たちで調べて見つけたことを生かして、今後の学習を進めることで意欲をもって取り組むことにつながる。

ICTを活用した主な学習場面

- ・これまでの学習を思い出す場面
- ・体験した学習についてポスターにまとめる場面
- ・意見を選択したり、発表したりする場面

ICT活用の利点

- ① 互いの進捗を共有しながらポスター作成ができる。
- ② 順序の入れ替えや内容の修正の負担感が少ない。
- ③ 自分が選択した回答についての正誤がすぐにフィードバックできるため、達成感を感じやすい。
- ④ 知りたい情報を自分の力で調べることができる。

1 単元名 「埼玉県の郷土料理や特産品について体験したことをまとめて伝えよう」

2 単元設定の理由

本学級には、6名の生徒が在籍している。生徒の主たる障害は知的障害である。口頭指示を理解して行動できる生徒が多いが、視覚的に情報を提示されると、より理解を深めることができる生徒もいる。学習活動への取り組みにおいては、興味・関心の幅が広くはなく、初めて取り組む活動や自分の好む活動でないと受動的になることがあるが、実際に体験しながら学習を進めることで、興味・関心を高めて自ら学習に取り組むことができる生徒が多い。また、自らの意見をまとめて発表することや、他者と協働して物事を進めることに関しては消極的になってしまうこともある。

前単元では、生徒らが住んでいる「埼玉県」をテーマに設定した。生徒たちの興味・関心の高い「食」を切り口に、「すったてうどん」や「狭山茶」といった埼玉の郷土料理や特産品を軸に据え、調理や栽培、ものづくり体験などの体験的な活動を中心に学習を展開した。様々な体験を通して、地元への理解を深めるとともに地域の魅力に気づき、「行ってみたい」「やってみたい」という思いをもつようになり、興味・関心の幅を広げることができたと考える。

本単元においては、1学期に行った「埼玉県」についての学習のまとめとして、体験してきたことについての復習をするために、調べ学習（社会）や埼玉クイズに取り組むとともに、まとめとしてポスター作成（職業・家庭）と発表（国語）に取り組む。どの学習にもICT端末を使用して取り組み、調べ学習は、ヒントをもとに自分たちで検索をして答えを導き出すことで主体的に学習に取り組むことができると考えた。クイズは選択式とし、写真やイラストなどの視覚的情報を取り入れることで、取り組みやすくする。また、不正解であった問題については繰り返し挑戦できるシステムにすることで、自分の理解が不十分な内容に気付くとともに、ポスター作成においては文字入力や画像挿入などを通じて、書字や描画が難しい生徒も自分の考えを表現しやす

くする。加えて、役割分担を通して協働的に作業を進めることで、学級の一員としての自覚や達成感を得られるよう指導する。完成したポスターを用いて発表することで、発表に対する苦手意識を軽減しながら表現することができ、他者に伝わったという経験を実感できるのではないかと考える。

12月には、これまでの学習や活動を生かし、「埼玉物産展」の企画・運営を行うことを生徒たちは目標としている。自分たちが体験し、まとめて感じた埼玉のよさや魅力を普段関わりのない他者に自分たちの言葉で「伝える」活動へと発展させることで、埼玉への興味・関心を深めるとともに、自ら発信する力の育成も図っていききたい。そして、これらの活動を通して得た興味・関心や行動力によって、将来の余暇の幅を広げたり生活を豊かにしたりしてほしいと考える。

3 単元の目標

- (1) 様々な活動に、自分の力で取り組もうとすることができる。
- (2) 自分なりの表現方法で、まとめた内容を相手に伝えることができる。
- (3) 体験してきた学習を振り返り、埼玉の郷土料理や特産品について理解を深める。

4 指導計画（全4時間扱い）

主な学習内容 ○取り扱う主な教科	ねらい	時間
これまでの体験活動を振り返るための調べ学習をしよう。 ○職業・家庭 職業分野 中学部1段階 B 情報機器の活用 イ ○社会 中学部第2段階 エ産業と生活（ア） <div style="text-align: center;">  </div>	・体験活動を振り返ることで、自分たちの取り組んできたことを思い出すことができる。	1
埼玉クイズに取り組もう。 ポスターを作成しよう。 ○職業・家庭 職業分野 中学部1段階 B 情報機器の活用 イ ○国語 中学部1段階 ア 言葉の特徴や使い方（イ）	・ICT端末を操作し、自分たちが体験したことを、写真や文字でまとめることができる。	1/2 (本時)
作成したポスターを使って体験してきたことについて発表をしよう。 ○職業・家庭 職業分野 中学部1段階 B 情報機器の活用 イ ○国語 中学部1段階 ア 言葉の特徴や使い方（イ）	・ポスター制作を通してまとめたことを、自分なりの表現方法で相手に伝えることができる。	1

特支編成要領 P25～指導計画作成上の留意事項（2）
（7）（8）（12）（15）

5 本時の学習（本時 2 / 4 時）

(1) 本時の共通目標

- ① ICT 端末の操作を理解して、自分で写真の挿入や文字の入力を行うことができる。
- ② 相手と話をして役割を決めることができる。
- ③ これまでの経験を思い出しながらかつ玉についてのクイズを答えることができる。

(2) 生徒の実態

NO	学年	名前	本単元に関する実態
1	2年	A	<ul style="list-style-type: none"> ・発語は不明瞭だが、自分のやりたいことや行きたい場所を伝えることができる。 ・ICT 端末の操作に関しては自分で操作を進めることは難しいが、教員が画面に提示したイラストや写真の選択肢の中から自分で選び、意思を伝えることができるようになってきた。 ・ストレスや緊張を感じると、気持ちが安定しないことがあるが、落ち着ける場所に行くことで気持ちの安定を図ることができる。 ・ひらがなで書かれた自分の名前を選ぶことはできるが、書字や文字の理解は難しい。
2	2年	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で使用する漢字の読み書きや2桁同士のたし算、ひき算ができる。 ・ICT 端末に自分で文字を入力することができる。 ・口頭指示に対して概ね内容を理解することができている。 ・経験が少ない、自信がもてないことに対しては消極的な部分がある。 ・話をするのは好きだが、改まった場面や話し合いをする場面で自分から発言をすることは少ない。
以下省略			

(3) 個別の指導内容及び目標

NO	学年	名前	具体的な指導内容	個人目標
1	2年	A	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を想起できるような写真の提示を手元の ICT 端末で行ったり言葉かけをしたりする。 ・個別に操作方法の手本を提示し、必要に応じて、手を取って一緒に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員とのやり取りの中で、自分が経験したものを選択できる。 ・個別の支援を受けながら、ICT 端末を操作して、自分で選んだ画像を挿入できる。
2	2年	B	<ul style="list-style-type: none"> ・相手と話をせずに、自分だけで進めようとする様子がみられたら、役割を決めるように伝える。 ・やり方が分からず自分から取り組み始めることが難しい場合には、前方のモニターを確認するように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見を聞き、自分の意見を伝えながらポスターの担当部分を決めることができる。 ・取り組むことを理解し、ICT 端末で画像を挿入したり文字を打ち込んだりすることができる。
以下省略				

(4) 展開

時間	学習内容	○生徒の活動 ◎予想される生徒の反応 □指導者の主な指示、発問等 ※指導の手立て *評価の観点		
5分	1 挨拶をする。 2 本時の学習を確認する。	A	B	他
		○日直の挨拶で授業を始める。		
		※事前に姿勢や表情について気をつけることを言葉かけする。	※事前に姿勢や表情について気をつけることを言葉かけする。	※事前に姿勢や表情について気をつけることを言葉かけする。
		□前回は、埼玉県の名物や特産品について調べ学習をしました。今日は、まず前回のことを覚えているかのクイズをした後、ICT端末を使ってポスターづくりをします。 ※本時の流れをモニターで示すとともに、拡大印刷したものをホワイトボードに貼り付ける。		
	<div data-bbox="199 779 529 958" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>•iPadをじぶんでそうざしてすめよう •ともだちとやくわりぶんたんをしてさぎょうをしよう</p> <p>① ふりかえりクイズ </p> <p>② ポスターをつくろう </p> <p>③ ちゅうかんはっぴょう </p> </div>	※本時の流れを示したプリントを手元に準備し、終わるごとに○印をつけていく。 ※前時の学習を想起できるような写真の提示を手元のICT機器で行ったり言葉かけをしたりする。	※思い出せていない様子が見られたら、これまでの学習を想起できるような問いかけをする。	
15分	3 ICT端末を使用し体験ふりかえりクイズを行う。	□今日のクイズは、タブレット端末のアプリ（グラフィックデザインツール（Canva））を使います。タブレットを準備して前をみてください。		
		○モニターを見ながら自分のICT端末でクイズに取り組む。		
	<div data-bbox="199 1579 529 1848" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ICT活用の利点③</p> <p>自分が選択した回答についての正誤がすぐにフィードバックできるため、達成感を感じやすい。</p> </div>	<div data-bbox="829 1556 1252 1780" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント①</p> <p>ICT端末を使用することで、意見を伝えたり表現したりすることが苦手な生徒も取り組むことができる。</p> </div>		
		※画像による選択肢を用意する。 ※個別に操作方法の手本を提示し、必要に応じて、手を取って一緒に取り組む。	※やり方が分からず自分から取り組み始めることが難しい場合には、前方のモニターを確認するように伝える。	*取り組むことを理解し、ICT端末で

		<p>* 教員とのやり取りの中で、自分が経験したものを選択できたか。</p>	<p>画像を挿入したり文字を打ち込んだりすることができたか。</p> <p>* 自分の答えを発表する場面を設定する。</p>
20分	4 ポスター作りを行う。	<p>□ ポスターは二人組で協力して作ります。完成するとこのようになります。</p> <p>* 完成見本とペアをモニターに示す。</p> <p>□ まずは、二人組になってポスターのどの部分を作るかを話し合ってください。</p> <p>* ペアになることができない生徒には個別に言葉かけをする。</p> <p>○ 「すったてうどん」「さやまちゃ」「まがたま」の3グループに分かれて取り組む。</p>	<p>○ グラフィックデザインツール (Canva) を使い、ポスターを作る。</p> <p>* 前方のモニターに作成方法の手順を示す。</p>
		<p>ICT 活用の利点① 互いの進度を共有しながらポスター作成ができる。</p>	<p>事例のポイント② ペアで行うことで他者と適切なコミュニケーションを取ったり、自分の意見を述べたりすることができる。</p>
		<p>ICT 活用の利点② 順序の入れ替えや内容の修正の負担感が少ない。</p>	<p>* <u>どの部分をやりたいか選択肢を提示する。</u></p> <p>* <u>どの写真を使いたいか選択肢を提示する。</u></p> <p>* 個別に操作方法の手本を提示し、必要に応じて、手を取って一緒に取り組む。</p> <p>* 個別の支援を受けながら、ICT端末をタッチして、自分で選んだ画像を挿入できたか。</p>
		<p>事例のポイント① 自分の意見を伝えることが難しい生徒も、自分の意見や考えを表現することができる。</p>	<p>* やり方が分からず自分から取り組み始めることが難しい場合には、前方のモニターを確認するように伝える。</p> <p>* 相手と話をせずに、自分だけで始めようとする様子がみられたら、役割を決めるように伝える。</p> <p>* 相手の意見を聞き、自分の意見を伝えながらポスターの担当部分を決めることができたか。</p> <p>* 自分の役割以外に気を取られているときには、言葉かけをし、必要に応じて、ICT端末操作の手本を見せる。</p> <p>* 取り組むことを理解し、ICT端末で画像を挿入したり文字を打ち込んだりすることができたか。</p>

